

『館長の小窓』



No.12 (H26.9.21)

9月20日(土)、小原ガイドボランティア主催による「第3回 おばら杉田久女俳句大会」が、地区内外から約150名の参加を得て盛会に開催されました。

「杉田久女」は、高級官吏であった赤堀廉蔵の三女として鹿児島市生まれ、高浜虚子に師事し大正末期から昭和初期にかけて活躍した女流俳人です。句碑は夫である杉田宇内の屋敷跡(小原地区松名町)に建立され、尊い文学の道しるべとなっています。

当日は、早稲田大学環境総合研究センター参事で杉田久女の直孫でもある「石 太郎氏」から「杉田久女とおばら」と題して講演があり、俳人久女や家族の生き様、俳句を通じた自然観・人生観・社会観、さらには幼少時代を過ごした小原での思い出や、心・自然・里山・文化・伝統を大切にしたい小原の将来に向けての助言等もあり奥深い内容でした。

その他、参加者からの自由投句(私も2句提出)や当日俳句会なども行われました。

【催しのお知らせ】

◆ 小原スポーツフェスタ：9月28日(日) 9:00~12:00 (緑の公園)

【おばら杉田久女俳句大会の様子】



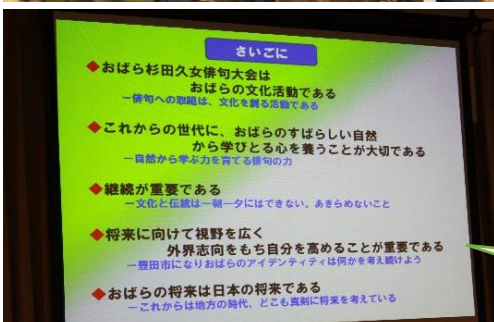
山内代表から主催者あいさつ



杉田久女の直孫「石 太郎氏」の講演



真剣に聞き入る参加者



最後に、小原の将来に期待を込めて！！

- さいごに
- ◆ おばら杉田久女俳句大会は おばらの文化活動である
—俳句への取組は、文化を育てる活動である
 - ◆ これからの世代に、おばらのすばらしい自然から学びとる心を養うことが大切である
—自然から学ぶ力を育てる俳句の力
 - ◆ 継続が重要である
—文化と伝統は一朝一夕にはできない。あきらめないこと
 - ◆ 将来に向けて視野を広く
—外界志向をもち自分を高めることが重要である
—豊田市になりおばらのアイデンティティは何かを考えよう
 - ◆ おばらの将来は日本の将来である
—これからは地方の時代、どこも真剣に将来を考えている